



2012年4月25日
公益財団法人ヤマト福祉財団

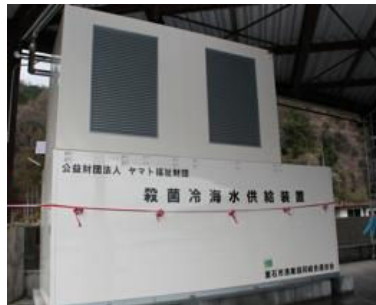
**[釜石市漁業協同組合連合会 釜石魚市場経営基盤復興再生事業]
「魚の町・釜石」の復活と「釜石ブランド」構築へ
新しい氷供給施設、衛生管理施設の竣工式が行われました**

4月23日、釜石漁港の新浜町地区・第2魚市場にて氷供給装置(移動式砕氷車両)、衛生管理施設(殺菌冷海水製造装置)の竣工式が行われました。これは、公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富 慶二、以下ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第2次助成先の一つである釜石市漁業協同組合連合会が、助成金1億5000万円を活用して推進する事業です。

リアス式海岸という地の利を活かした養殖漁業や小型漁船の水揚げを中心に活気づく釜石魚市場。しかし、震災で魚市場の要となる水揚げ施設を損失しました。“魚の町・釜石をなんとか復活させたい”と魚市場の整備を続け、昨年8月に第2魚市場を再開。取扱高も計画を上回り、現在は“より水揚げしやすい衛生的な市場”への強化を進めています。竣工式で上村勝利代表理事会長は「今回の助成で水産物の品質・衛生管理を強化できる待望の殺菌冷海水製造装置も導入できました。今後は製品の付加価値を高め、釜石ブランドの構築を目指します」と挨拶。この装置の2機目も7月末に新浜町魚市場にも導入予定です。8月下旬のサンマ漁から12月初旬の秋鮭の盛漁期に向け、大型船やトロール漁船などにも対応できる水揚げ体制づくりが着々と進んでいます。



竣工式は第2魚市場内で開催、多くの関係者が出席されました



殺菌冷海水製造装置は、常時1℃の殺菌海水を供給でき、水よりも魚体を痛めずに鮮度を保持できます



毎時48トンの砕氷処理能力を持つ移動式砕氷車両の導入。船積氷、市場内水を短時間で効率的に供給します